



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

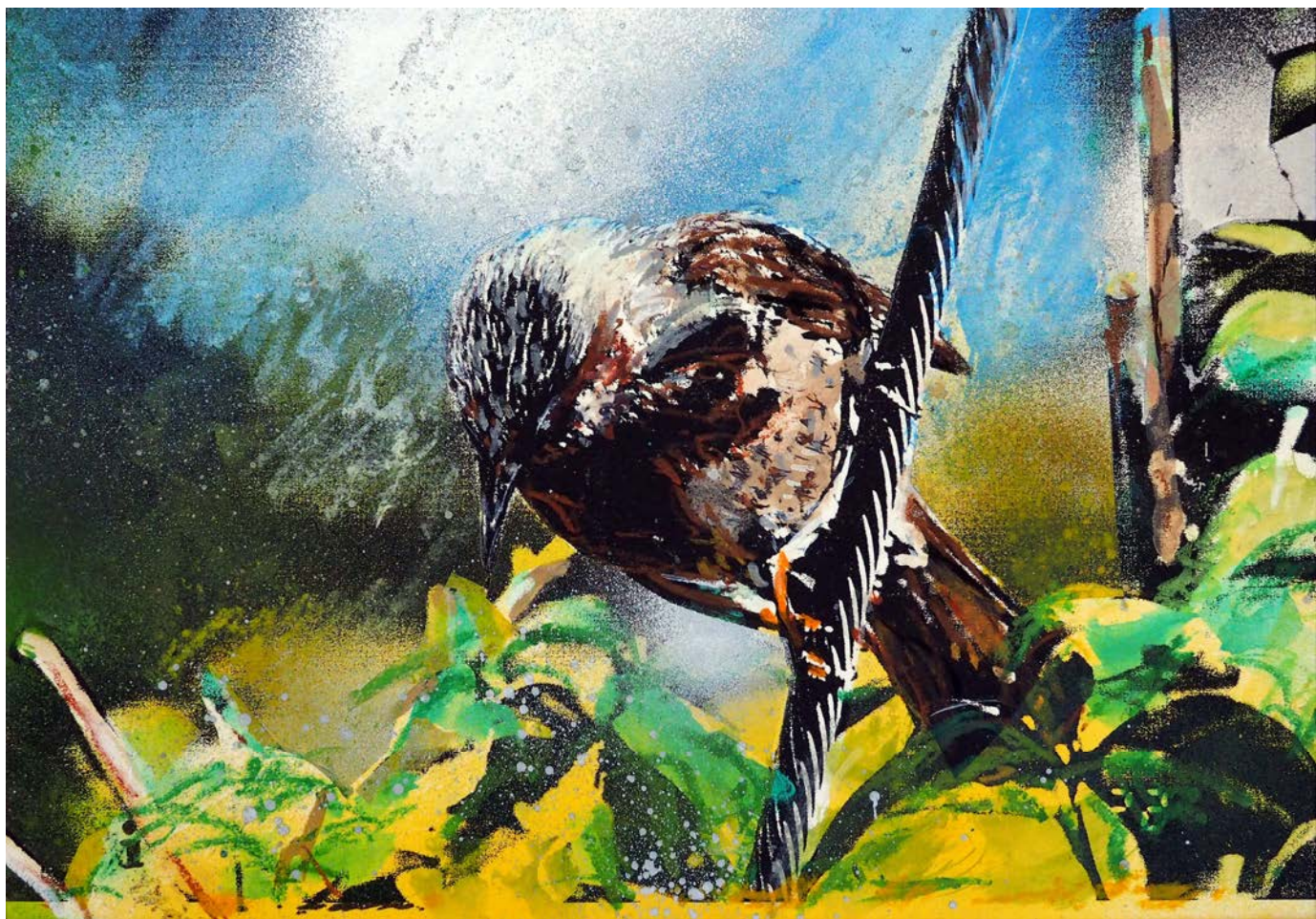
あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵 井上 忠司 愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10 年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者でした。



例年夏まつりは、「地域交流カフェ」として一般の方や多くの子供たちに参加していただき楽しんできましたが、今年は新型コロナウイルス感染対策で、8 月 18 日に当日のさんしょうご利用者 16 人と職員のみで「さんしょう・夏まつり」として開催しました。

どう祭らしくしようかと頭を悩ませましたが、飾りつけ・祭り囃子を背景に、焼きそば・焼き鳥の屋台飯の食事、かき氷・ところてん・カステラ・アイスクリームのおやつ、射的や輪投げ、スイカ割り、そして盆踊りと盛り上がっていきました。屋上では、バーベ

キューも。ノンアルコールビールの乾杯では、普段“こわもて”のご利用者にも笑顔が。お祭りの雰囲気の中、皆さんお昼ご飯もいつもよりよく召し上がられていました。射的と輪投げで笑いが広がった後は、盆踊りで大いに盛り上がりました。マスク着用とソーシャルディスタンスに気を付けてのまつりでしたが、日常の緊張がほぐれ、ひとり一人との交流が一段と深まったまつりでした。

(柿崎皓祐)



医療的ケア児レスパイト 施設建設への協力を要請 本郷谷松戸市長さんと面談



(本郷谷市長さんを真ん中に、面談後の記念撮影)

8月26日、幸樹会も参加している「医療的ケア児レスパイト施設をつくる会」が、本郷谷健次松戸市長との面談を行いました。松戸市からは本郷谷市長、伊藤智清副市長、福祉長寿部部長などの役職員の皆様に出席していただきました。「つくる会」からはレスパイト施設建設主体の医療法人はるたか会理事長・前田浩利医師の他役職員4名、医療的ケア児を抱えるお母さん3名、幸樹会から中野三代子代表理事、あんず訪問看護ステーション所長・大塚かすみ、本部主任・中野夏希が参加させていただきました。(大塚かすみ)

まず前田医師が、在宅で暮らす人工呼吸器・気管切開・吸引・経管栄養などの医療的ケアが必要な子どもたちをとりまく現状とレスパイト（短期入所）施設の必要性を説明しました。在宅の医療的ケア児は全国に約2万人、松戸市では80～100人。そして、松戸市は全国の中でも、医療的ケア児・家族への支援事業に積極的に取り組んできた先駆的実績があり、自宅で家族と一緒に生活する様々な支援の基盤は整ってきています。その松戸市でも整備されていないのがレスパイト施設で、これが実現すれば、家族の介護負担を大きく軽減し、兄弟等への支援も充実すると訴えました。全国の中でも行政、地域、医療・介護・福祉事業体が一体的となってレスパイト施設をつくれるのは松戸市しかなく、全国で注目される取り組みになると説明しました。そして、はるたか会が建設主体となって進めている「レスパイトハウスやまぼうし」の建設図面を示して、本郷谷市長に協力を要請しました。

続いて、大塚看護師が訪問看護の立場からの発言をさせていただきました。訪問看護ステーション開設当初から、はるたか会あおぞら診療所の協力を得て医療的ケア児への訪問看護を積極的に行い、現在では延べ10名以上の医療的ケア児・者に支援している実績を報

告。その実績と体験を踏まえて、在宅で暮らす医療的ケア児支援に不可欠な訪問看護の役割と、子ども・家族と顔見知りで信頼関係を結んだ看護師が、レスパイト施設でも関わる重要性を訴え、訪問看護師がレスパイト施設に訪問できるように資金的支援をしてほしいと要望しました。

そのあと、医療的ケア児を抱える松戸さん、菊田さん、森さんの3名のお母さんからの訴えがありました。あんず訪看でも訪問している森夕風ちゃんのお母さんは、「私の5歳の子供は呼吸器を使っており、その子の下には3歳、生後3カ月の子どもがいます」と自己紹介をすると驚きの声。森さんから「私の子どもは骨が本当に弱くすぐ骨折をする。抱っこしてもらうのも心配。そんな状態であるからこそ、顔見知りの看護師さんにレスパイト施設でも見てもらったら安心です」と発言されました。森さんの切実な訴えは、松戸市の皆さんにもしっかりと伝わったように思います。

本郷谷市長からは、「ぜひ一緒に協力していきましょう」との心強いお言葉をいただきました。

「レスパイトハウスやまぼうし」を松戸市、家族・地域、「つくる会」の皆さんと一緒に協力してつくりあげられるように、幸樹会としても協力していきたいと思っています。

第23回さんしょうの運営推進会議の報告

リハで在宅可能性を拡大

コロナ感染予防で、今回は集合せず、議事録案を郵送し、ご意見をいただく方式で開催しました(8/18)。

特徴的な報告として、作業療法士・理学療法士（セラピスト）の加入によって、在宅支援機能が拡充してきており、次のような具体的事例を紹介しました。

C病院を退院する時、Aさんは、持病の神経難病があり、両足首の骨折をしたので、独居の自宅生活は難しいと施設入所を進められていました。しかし、本人の自宅に戻りたいという強い要望により、さんしょうを利用しながら、自宅に戻れるか調整・評価することになりました。1カ月間、泊り中心のサービスを利用し、セラピストが自宅の環境・身体機能の評価を行い、本人の自宅に戻るという目標に向かって介護、看護職員と共に取り組みました。日中一時帰宅、自宅で1泊、2泊、と段階的なプラン変更を行う中で、寝室の場所の変更や、室内の移動動作の確認、排泄・食事準備・洗濯はどうすると、具体的な生活内容の評価と支援内容を検討しました。事業所全体で、目標と支援内容を確認、実施しました。本人の努力と強い意向もあって、8月にさんしょうを卒業、自宅での訪問系の居宅サービス利用の生活に移行となりました。(大塚かすみ)

フレキシブルな対応に、 心底驚き!!

千葉県健愛会あおぞら診療所
医師・住谷智恵子

8月にさんしょうを見学研修された住谷先生から、以下のご感想をいただきました。たいへん励まされる感想です。私たちも利用者中心の看多機がもっと増えていけばいいと思います。

研修前は単に「さんしょうを利用している患者さん」という認識しかありませんでしたが、登録患者さん全体のスケジュールや、1人1人の状態に応じて訪問看護/介護、通所・宿泊の4機能を駆使されている様子を見させて頂き、こんなにもフレキシブルに対応していたのだと心底驚きました!!

研修の中で施設内の環境や業務を見学させていただいたこと自体とても貴重な経験でした。食事やおやつの準備を通しての利用者さんとの関わりもアットホームで感激いたしました。一方、色んな利用者が様々な利用方法をされるので、特に薬の管理が大変だということがよく分かりました(なるべく一包化しようと思いました)。

また、ご利用者(一人暮らし100歳)のご自宅の訪問介護に付き添わせていただき、食事内容・食事の様子(冷蔵庫の中身やお米の保管も含む)をうかがえたり、まさか「自宅に洗濯機がなくさんしょうで洗濯してもらっている」とは知らず、生活をサポートするという視点で訪問できたことも大変貴重でした。

地域でこのような施設が増えると良いなと思いました。そして、スタッフの方々のご負担や登録の空きを考慮し、本当に必要な患者さんにこの素晴らしい機能を提供できるようこちらもしっかり検討しなければ、と実感いたしました。

大変学びの多い1日でした。貴重な機会をいただき、心より御礼もうしあげます。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新入職員の紹介

介護福祉士

師山 亜紀

介護施設にて、長い間従事していました。

看護小規模多機能は、初めてとなりますが、多くを学び、多職種と協力しながら一人ひとりが「幸せ」と思えるケアをしていきたいと思っています。宜しくお願いします。



看護師

の

こころ

あんず訪問看護ステーション看護師・福崎 雪枝

「いつ頃から看護師になりたいと思ったの?」と聞かれ、しばらく考えて看護学校2年の頃だと思い出しました。志低く看護学校に入学しました。本来、健康体の私は、病院とは無関係で過ごし「看護師」はお医者さんと一緒にいる人くらいの認識でした。

がんセンター付属の看護学校に入学すると、寮生活と共に座学と実習が始まります。受け持ち患者さんは、ほとんどががんの方で「私の病名は何だ?がんか?」といきなり怒りをぶつけられることもありました。当時、がん患者さんは告知されないことが多く、「悪いものが見つかったので」と説明を受け治療開始となりました。症状が改善されることもありましたが、再発を繰り返すこともあり、多くの不安を抱えていました。「病名を周囲に話せば周りは腫れ物に触るような態度で疎遠になっていったよ」と話す方もいました。本人も家族もどうしたらいいのかと迷うことが多かったと思います。

良いケアを求めて

学生の頃から末期がんの患者さんについて考えることが多く、患者さんやご家族にとっての良いケアは何か?を職場の仲間とよく話し合っていました。もし、私自身ががんになったら…、告知はしてもらう。痛みが強ければ眠らせてもらう、最後まで好きな物は食べる。体が動かなくなる間に身辺整理をして大好きな人たちにそっとさよならを言う…。病院で行われていることと、自分だったらとのズレを感じていました。

その後、転勤等で病院勤務を離れ、少しずつ時代が変わり、医療も変わり、人々の考え方も変わりました。効果的な痛みのコントロール方法や在宅で高カロリー輸液も可能になり、自分の治療についても選択肢から選べるようになり、ケアマネジャーや介護サービスを使ってチームで病気と共に自宅で生活することもできるようになりました。

今回、あんず訪問看護ステーションで看護師として今までと違った環境で足を踏み出すことにしました。今まで見てきたことや体験してきたことを全て生かせたらという思いです。

母校の理念は「病む人の気持ちを、そして家族の気持ちを」です。今も時々自分に問いかけています。

今月の屋上太陽光発電量は、

825KWh

幸樹会館電力使用量 53784KWh

自給率 15.34%





デンマーク便り…²⁸

ラスムッセン 京子

デンマークでも8月22日から公共交通機関を利用する時、12歳以上はマスクの着用が義務づけられました。拒否すれば、巡回してきた車掌さんに次の停留所で降ろされるのですが、それも拒否すれば2500 クローネ（約4万円）の罰金が課せられます。中には口論にもなったりするようで、その場合職務妨害で4000 クローネ（約6万円）の罰金にもなるそうです。とはいえ、これは他のEU諸国からの要望で実施されることになったので、「とにかく皆さん宜しくお願いします」という感じです。中にはスカーフを顔に巻いてマスクの代わりにしていますが、これも許されています。でもデンマーク人は罰金などには敏感ですから、22日から突然マスクを殆ど全員が着用して、バスや列車・フェリーを利用しています。この姿は普段では考えにくいですが、これも日常の事になりそうです。

マスク姿が日常に



新型コロナウイルスの陽性者は増えていますが、入院患者は少なく、重症患者は全国で只今5人だけです。海外出張や旅行でEU諸国に行くには、現在感染していない証明書が必要で、それを求めて無症状の人がたくさん検査に来ているという事情が反映しています。

日常生活が戻り、レストラン・パブなども営業しています。7～8月は、国内フェリーの運賃が車を乗せない人は無料ということもあって、国内の島を訪れる観光客が急増、島の観光地レストランなど盛況で大変な賑わいです。実家のあるボーンホルム島も例外ではなく、宿泊施設はもうキャンセル待ちが続いています。

写真は、コペンハーゲンの市電を利用する人達の様子です。黄色いジャケットの男の子がマスク姿の大人を見上げている光景がデンマークらしいです。

私も23日に島からコペンハーゲンに帰る際、フェリー、列車、地下鉄、バスと全ての利用者が突然マスクを付けているのに驚きました。当然私も着用していますが、握手をする習慣も今は有りません。

つばめ、無事巣立ちしました

職員が作ってあげたセカンドハウスには3羽、元のおうちには2羽がいたのですが、ある朝つばめたちを見たら、5羽全員がセカンドハウスに。いろいろあったけど全員飛べるようになりました。飛べるようになった後は、日中は、巣立ちの練習をしているのか全く巣に帰ってきませんでした。夕方暗くなり涼しくなってくると、巣に戻ってきていました。戻ってきたつばめたちを見ていると、“飛べるようになったよ”と教えてくれているかのように、私たちの周りをチュンチュン言いながら旋回しました。“巣立つときは言ってね”なんて、お願いしていたのですが、8月中旬過ぎ、何も言わずに巣立っていったみたいです。もしかして、あの「チュンチュン」が巣立つよってことだったのかも。

（櫻井美恵）



八柱学習会

●前回報告 8月21日（金）、助言者：武井幸穂氏
「リハビリテーション」報告・周藤俊彦

訪問リハの良さも

参加者13名。リハビリ部門職員3名がそれぞれリハビリテーションについて発表しました。参加者からリハビリは、“病氣、怪我をした人が訓練室で運動や平行棒で歩いているイメージ”との声が多く聞かれましたが、リハビリテーションでは、手足の運動や歩くことも行うのですが、ただ訓練するだけではなく、その人の生活、意思を大切にして個別性の高いアプローチを行っており、趣味活動、職業復帰、社会参加の援助等、その人の生き方に寄り添った関わりができるよう日々考え、支援をさせて頂いていることを話しました。

また、訪問リハビリの良さはオーダーメイドな目標を立てて取り組めること。もともとの生活状況や希望される生活状況・生活像を聞き、オーダーメイドの目標を立てています。また、ご家族と一緒に目標に向かって取り組むことができるのも良さ。家族の力はすごいなぁと実感しているし、ご家族と一緒に目標に向かって取り組めるところが病院との大きな違いです。

そして、現代人の大半が悩んでいる腰痛、肩こりに効く体操、自身の体の評価方法等、実際に体を動かして体験をしていただきました。リハビリ職は運動・作業訓練のプロですが、社会参加に向けた幅広い活動を行っていることを知っていただけたらと思います。

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第3金曜日」）

9月18日（金）18：30～、あつまーれ幸樹
「ケアマネジメント」（予定）

《参加自由》

職員募集！ 非営利・働きがいある職場
看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550